
MOON-3 『WOLF MEET VAMPIRE』 < 1 0 >

みづき海斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

MOON - 3 『WOLF MEET VAMPIRE』 <10>

【Nコード】

N1998M

【作者名】

みづき海斗

【あらすじ】

秀は謎の青年 和人と出会った事で自分の中のもう一人の『自分』が目覚めつつあることを知る。そして、新たなる『安らぎの場所』を求め始める。

『WOLF MEET VAMPIRE』＜10＞（前書き）

秀の過去の話です。

『WOLF MEET VAMPIRE』 <10>

< 10 >

鮮やかに、記憶の中に甦るのは――

あれは、小学生の時。

家の近くには、何匹かの野犬がいた。

学校にはそれらには十分注意するよう生徒は教師に言われ、登下校の際はいつも数人で歩いていた。

何度か地域の保健所の職員が捕獲を試みた結果ほとんどが捕獲されたが、最後の一匹だけは取り逃してしまった。

梅雨の時期だった。

小雨の中、いつものように家の近くの曲がり角で友人と別れ10分の道のりを一人帰路についたが、彼が一人になった途端、それを待ち構えていたかのように例の最後の野犬が、幼い秀に襲いかかって来た。

突然だった。

人気のない、神社裏の陰から飛び出してきた野犬は、秀の細い右腕に鋭い牙を食い込ませた。

バシャ・・・・・・！！

水たまりに倒された秀は、大人の助けを求めようと、声を出そうとする――が、獲物を求める野犬の牙は、秀の右腕だけでは物足りず、再び路上の彼に向かって襲いかかってきた。

（やられる・・・・・・！！）

そう思った瞬間――

ざー　ざー　ざー

「・・・」

どれだけの時が過ぎたのだろうか。

ふと、気が付いた時には、秀は雨足を強めた雨の中、一人立ち尽くしていた。

何が起こったのだろうか・・・

確かにあの時、俺はあの野犬に殺されていただろうに・・・
生臭い血の臭いが鼻をつく。

ゆつくりと、足下に目をやる・・・そこには、鋭い”刃物”で四肢を引きちがれた野犬が、水たまりをどす黒い血の色で染め横たわっていた。

その姿に思わず吐き気をもよおし、口元を両手でふさぐ。
ふいに手の平に、何か生ぬるいものが伝わった。

口の中が、妙に”鉄”の味っぽい。

そつと、口元から離れた手の平を見してみる。
すると、両手いっぱい赤い血が広がっていた。

だが、秀には口の中を切った痛みがない。

それどころか、先ほどの野犬に噛みつかれたはずの右腕にも何の痛みもなく、自由に動かすことが出来る。

秀は、野犬の屍から離れ、家に向かって走り出した。

どこをどう走ったかは、全く覚えていない。

気が付くと、雨と血の滴で全身を染め、茫然と玄関に立ち尽くす秀を、母親が夢中で抱きしめていた。

イッタイ ナニガ オコッタノダロウ・・・

自分の中に潜む、得体の知れないもう一人の『自分』を、秀は成長するにつれ次第に自覚していった。

それは、何か危険が自分の身に迫った時。

バイクでトラックと正面衝突した時も掠り傷だけで済んだ、高校

生の時。

あれは、大学の卒業を控えた春休みの最中であっただろうか……

人文科の友人たちと藝科にある大学の寮を借り切って、卒業コンパを開いた時――

真夜中自室を抜け出した秀は、八ヶ岳上空に浮かぶ満月を、無言でいつまでも見つめていた。

煌々と照り輝く、青白い月の光が自分の体を包み込む――
いや、逆に自分の体が、月光の全てを余すことなく満身で吸収しているようだった。

一呼吸、それらを吸い込む度に体中に『^{エナジー}血』が満ちる。

秀の不在に気付いて探しに来た友人が、自分に声をかけるまで彼はそんな自分に気が付かなかった。

「何でこんなトコにいるんだ、俺は。」

「聞きたいのは、こっちの方だ。飲みすぎじゃないのか、秀。」
呆れ顔の友人に「さあ。」と、両手を上げて首を傾げて見せる――

その頃には既に秀は、大学病院の院長を務める父のもとから離れ、都内のマンションで一人暮らしをしていた。

父は息子の『特異体質』に気付いていただろうか……
医者である父に、知られるのが怖かったのか、家を出て以来、秀は父とも同じ医師である一つ違いの兄とも会っていない。

時々、兄から「たまには帰って来いよ。」と留守電に入っているが、帰る気にはならなかった。

そして、あまり長いこと特定の人と場所を同じくしたり、深い付き合いをすることもなくなっていた。

いつか、ばれる――俺の中の『俺』。

そんな不安が、いつしか秀を一人の生活に慣れさせていた。

モトメテイル ワケジャナイケド――

オレノ ” イバシヨ ” ハ ドコニ アルノ ダロウ
ヤスラギノ ” バシヨ ” ハ ドコナノ ダロウカ ・ ・ ・

ドレダケ ネムレバ キミニ アエル ・ ・ ・ ?

『WOLF MEET VAMPIRE』＜10＞（後書き）

BGMは『DASEIN』『GANET CROW』『A・B・S』
がお勧めです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1998m/>

MOON-3 『WOLF MEET VAMPIRE』 < 1 0 >

2011年1月9日02時01分発行